

第5回木曾地域の高校の将来像を考える協議会 会議録

令和2年12月3日（木） 午後6時00分

木曾町文化交流センター ホール

【欠席】

清水幾代 信州木曾看護学校副校長

上田浩之 木曾郡PTA連合会会長

1 開会

○事務局 お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまから木曾地域の高校の将来像を考える協議会の第5回会議を開催させていただきます。

私は協議会事務局の木曾町教育委員会の川島と申します。本日司会を務めさせていただきますが、よろしく願いいたします。

2 会長あいさつ

○事務局 初めに当協議会の会長であります木曾町長 原久仁男より御挨拶を申し上げます。

○会長 皆さん、こんばんは。夜分、また遠いところから委員の皆さんにおでかけいただきまして大変ありがとうございます。第5回の会議ということで、この協議会が発足してから本年2年弱ですが、大変長い期間にわたってしまいましたけれども、今年のコロナ感染拡大というそういう状況下で、ある意味仕方がないのかなと思っております。

今年は本当にコロナで始まってコロナで終わろうとしている、そんな師走になっております。大変残念ながら、木曾地域の中でも感染者が出てしまうということで、大変お気の毒でありますけれども、私どもの中にも大変不安を抱えている皆さんもいらっしゃるかと思いますけれども、何とか皆さんと力を合わせて乗り越えていかなければいけないと思っております。

この木曾地域の高校の将来像を考えるということで、それぞれ皆さんにいろんな形で御意見をいただいて、素案的なものも皆さんにお示ししてございます。また、パブリックコメントということで大変多くの皆さんから御意見をいただきました。それについても修正をして、皆さんにあらかじめお示しをしてございますので、ぜひ今日は忌憚のない御意見をいただいて、できれば県の教育委員会へ木曾の意見として提出をしていく、そんな運びにしていきたいと思っておりますので、よろしく

お願いをしたいと思います。

なかなか議論をして1つの方向にまとめるということは、それぞれのお立場もありますし、地域性もございますし難しいということで、当然要望はやはりいろいろ上げて、それを県教委へ提出していくというそういうことなのかなと思っております。

また逆に私自身もそうですけれども、今まで高校というと県の教育委員会が運営しているということで、地域では少し静観しているという言い方は変ですけれども、関わりが少なかったんじゃないかなと思っております。したがって、今回意見書を県教委へ出して、それで終わりということではなくて、むしろ私はこれから出発点であって、地域と高校がどういうふうに結びついて具体的に取り組んでいくかというのが非常に大きな課題でありますし、そういうふうにやっていけないといけない、そういう時代に来ているのではないかなと思っております。

そういう意味で、今回委員になられた皆様をはじめとして、多くの皆さんにこんな形になっていっていただけるような、そんな思いもこれから私どもも発信をしていかなければいけないと思っております。

そんなことを申し上げ、大変貴重な時間でありますので、ぜひ闊達な御意見をいただけるようお願いをして、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。最初に本日の欠席の委員のお知らせをいたします。副会長の清水さんですけれども、所要により欠席となっておりますので、報告させていただきます。

この協議会ですけれども、議事録を作成しております。録音させていただきますので、あらかじめ御了承をいただきたいと思います。

3 議事

(1) 意見・提案書(素案)への意見募集結果及び対応について

○事務局 それでは、協議事項に入らせていただきます。議事の進行につきましては、設置要綱第4条第2項の規定により、原会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○会長 それでは、次第の議事に沿って進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

最初に(1)意見・提案書(素案)への意見募集結果及び対応についてを議題といたします。それでは、事務局のほうからその結果及び対応について説明をお願い

いたします。

○事務局 説明

○会長 ありがとうございます。それでは、主なところだけということで全部に触れることはできませんでしたが、幹事会の考え方の部分で御質問なり御意見等ございましたらお出しただければと思います。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

幹事会の考え方ということに、先ほど説明がありましたように、御了解をいただいて、ホームページではこれを協議会の考え方としてお返しをしていくことになりますけれども、よろしゅうございますか。

(1) 木曾地域の高校の将来像についての意見・提案書(案)について

○会長 それでは、(2) 木曾地域の高校の将来像についての意見・提案書(案)のほうにはいますので、またその中でございましたらお出しただければと思います。

この(案)につきましても、事前にそれぞれの皆さんにお送りして御覧いただいていると思いますけれども、改めてもう一度事務局から説明をお願いしたいと思います。

○事務局 説明

○会長 ありがとうございます。それでは、ただいま事務局から説明といたしますか朗読もしていただきました。特に11ページからの木曾地域の高校の将来像に向けた意見・提案というところが一番肝腎な文章になろうかなと思いますけれども。それで、皆様方から御意見をいただければと思いますので、どなたからでも結構ですので、ぜひ御意見を出していただきたいと思います。

○委員 座ったままで失礼します。この意見書を読んで感じたことなんですけれども、高校が2校あって、木曾地域で育った人たちが育って行って都市部へ行ったりとか、帰ってきてほしいというのはあるんですけれども、帰ってくるためにもやはりこの木曾地域の魅力というものを実社会にいる我々との関わりをもっと強くして、そこで実社会、社会人というか大人はこんなふうを考えているんだなとかいうようなことをふれあいながら、そういう話もしながらふれあった中で、いろんな例えば学校が社会人の実社会で働いている人たちを講師として呼んで、そんな特別な授業もやったりしながら地域との関わりを深めていって、そのふれあいの中で、このおじさんこんなことを考えている、なかなかいいなと。そういう人間としての感化されるというか、そんなところで1つの気づきなんかが多分高校生たちは出てくると思

うんです。そういう気づいたところをもっと生かしながら、彼らの能力をもっと引き出すというよいきっかけになりはしないかなと。そういうふうに関わりの中で育まれていって高校を出た人間というのは、多分もっと地域に愛着があると思うんです。

ただ、高校というシステムで、学校はこういうカリキュラムをやって、こういうふうにやっていますという、それはもうごく当たり前の話だと思っているんです。だから、やはり地域を挙げての学生、高校生を育てていくというそういう姿勢が大事だと思う。それがまず1点。

もう1つ、1クラス30人と言うんですけれども、それ以外に教員1人当たり何人の生徒がいるんだと。そのあたりの数をもっと充実させていったほうがいい。教員1人当たり15人の生徒だよとか、そういった1人の教員に対して少人数になっていくというそこら辺を魅力にするならば、教職員の充実も1つのスケールとして見られるかなと思うんです。そういうふうな見方も取り込んでいったらどうかなと思います。

○会長 ありがとうございます。

○木曾青峰高校長 今の御意見は本当に共感します。青峰高校の校長ですが、実は地域の人との関わりを増やすことによって、もうちょっと青峰と地域との関わり、卒業しても例えばすぐに就職するにしても、そういうことを地道にやっていくということが多分一番大事だろうなと思って、今年1年から始めている未来の学校というプログラムでは、これは専門科に限りますが、今年うちの元PTA会長でもあった方、この方は平沢の漆器の塗り師の方なので、その人がどういう思いで仕事をして、言い方を変えると職人としての哲学みたいなものを語っていただきたいと思って、お呼びしてやったところ、職員との話でもやっぱりこういうことをどんどんもっと広げたほうがいいねという感想を持ちましたので、今の御意見は本当に。もう1つ何かいろいろいろいろな方々を探している。

実は、この前も地域振興局のほうの商工課の課長さんに面白い人はいませんかということで相談をかけて、いろんな方を紹介していただいたので、今度はそういう人たちと会わせるみたいな時間をもっと増やそうと。

それから、教員1人当たりの生徒については、本当にこれは生徒募集をするときに重要な観点だというふうに思ったので、本校は教頭先生に主に小中を回っていただきましたが、隣の蘇南の小川先生に至っては、小川先生自身が全部回って説明されているんですが、そのときに都市部校と青峰高校とどこが違うかという、教員

1人当たりの生徒が小さいんだよと。要するに手が入るといふか、きめ細かにいろいろできるんですといふところを全部で言ってくれといふふうにして回ってもらっているところなので、その点なんかも本当にありがとうございます。

○会長 蘇南高校から。

○蘇南高校長 私どもも1対40でやっている授業もあるんだけど、1対2の授業もあるし、場合によっては1対1の授業もあります。そこは格段に教育環境はやはりいいと思います。まずそれを守っていくということが大事かと思ひます。

それから、私どももここでこの協議会で議論されたことは、今年度のうちに始められることは始めようといふふうに幾つか手をつけています。地域との連携はまさにそうです。再来週になりますけれども、ふるさと探究序章と銘して、地域の方々を一斉に呼んで、1年生全員と対話させるということを始めます。

3つの分科会をつくって、地域経済の牽引、移動する人生、新社会の模索というテーマで、全く活躍する観点が違ふ方々がいかに南木曾といふふるさとを今つくっているのかということを見たい段階で見て感じて、そういうところから自分の人生を組み立てていこうと今組み立てています。したがって、ここで議論されたことは、すぐ手をつけられるところならつけようと思ひて両校とも動いていますので、お願いいたします。

○会長 ありがとうございます。それでは、ほかの皆さんはいかがでしょう。どうぞ。

○委員 私も先ほどの大人との関わりということを見たい段階で見て感じて、うちの小学校でも地域で働いている、地域で活躍している大人を通して地域を知るといふことを地域学習の中で大事にしています。そのかっこいい大人に憧れるということが、きっと地域に心を寄せていくことになるのではないかなと、そんなことを考えて取り組んでいます。なので、この提案書の中に書かれている魅力ある学びを地域とともにつくっていくといふこの提案は、私はとてもいいなと感じています。

○会長 ありがとうございます。そのほかの皆さんはいかがでしょう。

○委員 それではお願いします。13ページから14ページのところ、この会の意見・提案書の肝になる部分かなと思ひますが、全体として大変バランスの取れた内容であって、今、高校の方からもお話がありましたけれども、この会で話題になり議論されたことがもう既に高校においても、また小学校のキャリア教育においても、また実は中学校の学習においても、特に14ページの⑦番は本当に大事な点を御指摘いただいているわけですから、中学校としても現段階でやれることについて

は実際に取り組んでいます。

具体的には来週になりますが、蘇南高校さんで課題の発表会、今年度は残念ながら足を運ぶことができずに、オンラインでの発表になりますけれども、参加をさせていただきますが、私だけではもったいないなと思ひまして、本校では3年生全員が視聴をするそんな時間をつくりたいと思ひていますし、また来週の中学校長会におきましても、ぜひ全員でそんな機会をつくったらどうかということも考えています。

いずれにしても、13ページの①番の2校の存続が絶対というところから始まり、③番には、子供の普通科と専門学科の意識についても、これが大前提だということから、今後新しい予測困難な時代になっても学び続けられる環境の整備が具体的に述べられておりますので、非常によい内容かなということをおもいます。

○**会長** ありがとうございます。そのほかの皆さんはいかがでしょう。

○**委員** 今回いろんな方に御意見を寄せていただいて、個人、団体の皆様から様々な意見が。いずれもこの木曾地域の高校が将来に向けてよりよいものになるようにということで、大変貴重な意見をいずれもいただいたものと受け止めております。

また、幹事の皆さんには大変御尽力をいただいて追加・修正等もいただきまして、この内容でもって基本的には意見・提案をしていただいていただいたらいかがかなというふうに私は思っております。

1点だけ、これで恐らく取りまとめというようなことだろうと思ひますので、蛇足ながら内容についてはなくて申し上げさせていただきたいと思ひますけれども。実はうちの職員も何人か、地域の職員はいろいろ分かっちゃうので、違う地域の職員に読んでもらったんですけれども、やっぱりやや具体性に欠けるよねという感じは共通に思ったようです。

ただ、それは先ほど幹事からお話があったように、あくまでこの協議会というのは要綱にもあるように、望ましい学びのあり方とそれから具体的な方向性について考える場であるということであって、配置についてはもう2校存続だということがはっきりうたわれておりますし、望ましいあり方は少し幅広にこうなったらいいなということも含めて書かれてあるということで、その点をこれから住民の皆様にもこれをお伝えしていくことになろうかと思ひますけれども、そういう内容の続きの提案、意見であるというようなことを申し添えていただきたい。

それから、先ほど両校長先生からもお話がありましたけれども、この中でできるものはもう取り組んでいくし、また地域からも御発言があったように、地域もしっ

かり協力して、これをもうやれることはどんどん協力してやっていくんだということも併せて、ぜひ住民の皆様にお伝えいただければという意見でございますので、よろしく願いいたします。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがですか。どうぞ。

○委員 地域のかかわりという中から、例えば高校のほうからだったら、商工会とかそういうところへ行って、こんなことをやりたいんだけど、何か協力してくれないかと、一緒に考えてくれないかと有志を募ってくれるとかいうようなことを言ってくれば、多分それは対応できると思うんです。

そんな我々のほうのことは、そういうことを高校なりに言っていかなければいけないと思うけれども。とにかく、もっと地域、よそからも来ていますけれども、高校生をもっと地域で構ってあげることが大事だと思うんです。余計なおせっかいはやくでもいいですけども、何かそういうふうな関わりがどうも本当に薄いなというのはいつも感じるんです。電車に来て、駅で降りて高校まで歩いて行くというそれだけの話なんですけれども、その中でもあまり地域の人たちとの関わりというのが、関わる機会がない。アルバイトとかそういうのを通じるとあるんでしょうけれども、そういう社会体験というのを通じてでもいいと思うんですけども、それだけやはり1つ体験をするということとか、ほかの話聞いて、あのおやじ面白いことを言うなとかいうようなことを体験することも。場合によっては、そのおやじのいる職場なりに行って何かやるとか、そんなようなこともやりながら、もう少し我が木曾の高校生だと、生徒だというような感じのそういうふうな関わり方、在り方というのをやっていくことで、もっともっと地域に愛着が湧いて、そのことが例えば行ったきりになるかもしれないけれども、何かのきっかけでまた戻ってくる子供があるかもしれないという。それでその人間が成長していくという中ではいいことかなというように思います。そんなことをぜひお互いにやり合っていきたいなというように思っております。

高校だけじゃなくて、中学、小学校もそうですけれども、小学生に挨拶して、おはようと言ってもなかなか返答がないようなこともあるんですよ。そういう挨拶からも何か見えてくるものがあるので、本当はもっと早い時期からそういう関わりをもっと多くするというのも大事かもしれないですけども。

○会長 ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。どうぞ。

○委員 実は伐採の事業を営んでいるんですけども、今度木曾町の上町の辺に空き家を利用して木工作家さんのアンテナショップを造りたいなと考えている中で、高

校生とか学生を巻き込んでデザインとか耐震工事とかを考えているんですけども、またそのときはお願いします。

あした、企画財政課さんと商工観光課さんと打合せをして進めていきたいと思しますので、やはり自分のほうから、会社としてもそうやって地域と関わっていききたいと思っています。

○会長 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。どうぞ。

○委員 私は息子がおりまして、この会議の数日前に子供のほうに高校に行くに当たって何を望んでいると聞いたんですけども、もちろん勉強であるとか、将来の自分の夢に向けていわゆる進学、その前段階もあるんでしょうけれども、学校の設備的なもの、それが大分古くなっているのではないかという話をしていました。

大人のほうから子供たちを構っていくのも大事で、この意見書を見ると、将来、高校生活3年間を飛び越したまた大人になってからの話もあるんですけども、一番重要なのは3年間子供たちが生活している場所もすごく大事だと思うんです。PTAからも、また学校の先生からも県のほうに要望を上げるんですが、もっと地元の人たちも通っている子供たちの生活環境というものをもっと見ていただきたい。体育館が古いんじゃないとか、トイレが古いんじゃないとか、そういうのをもっと要望として上げて、今の子供たちが住みやすい環境をつくってあげたいと思うんです。

なかなか県の管轄で予算等あると思いますので、いきなり大きな改修というのは難しいと思うのですが、地道にそうやって子供たちが3年間育つ場所というものもしっかりつくって、それも1つの魅力であると思いますので、自分もそうですけれども、もっと多くの方々に関わっていただけるようなそういう時間をつくっていただきたいと思います。

○会長 ありがとうございます。

○委員 究極というところですけども、大学進学するのに、やはり家庭的な事情とか金銭的なもので非常に就学困難な人もいると思うんです。ですから、できればの話なんですけれども、みんなが出し合って、そういう子たちのための、そんなみんなは見れないですけども、奨学金みたいな制度も木曾郡の中でつくってみるというのも、そうするとそういう意欲がやはり湧いてくると思うんです。それだけやはり我々のほうも真剣になってくるだろうから、そういうことを創設するというのも地域を挙げて考えてみたらどうかなというのは思いました。

○会長 ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

○委員 この意見・提案書を読んで、私も今年度からこの会議に参加させていただいておりますので、まず内容を熟知しようと思って読ませていただいております。

この意見・提案書のやはり一番言いたいこと、2校存続だったりとか定時制が大事だとか、そういうことなんじゃないかなと思っております。一番大事な点をもう少し前半の部分で表現したらどうかなというのが私としては感じました。

一番言いたいことをやはり前半に出しておいて、その後でいろんなことを説明していくという表現もあるんじゃないかなと思っております。

○会長 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

○委員 皆さん方の御意見をいただいた中に様々な意見があつて、これをまとめるのは大変だと思いますけれども、木曾地域の特色を生かすということが一番大事じゃないかなということで、いろいろな角度から御意見をいただいておりますが、その中でやはりこれだけ少子化になって生徒数が減ってくると、全県レベルや都市部と比較した学校の在り方では、これからの木曾の将来というのは大変ではないかということで、先ほど説明の中で普通科と職業科の募集の比率が全県や都市部では7対3ということが比較的強くだされておりますけれども、やはり5対5でもこれはこれからの木曾の特色を出すには、そこは私は大事じゃないかなと思います。

そんなことで、普通科はもしあれだったら少人数学級ということも絡めた中で、やっぱり科だけは充実したものに持っていったというのが、この木曾地域の特色ある教育ではないかなと思いますので、そんなことも含めてひとつお願いしたいと思います。

○会長 意見・提案書（案）の中身で若干順番を入れ替えたりだとか、今、学科は5対5でもいいじゃないかというそういう御意見もいただいておりますけれども、その辺のところは少し幹事会で若干再度練るにしても、一応今日のところはこの意見・提案書（案）を成案としてお認めいただくという、場合によっては幹事会で再度見直して、御指摘いただいた点、中身的にはそんなに変わらないと思いますので、幹事会へお任せいただくということで、この意見・提案書を成案としていくということで協議会としてお認めいただくということでよろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは、若干の今申し上げた部分はありますけれども、成案とさせていただいて、今後、県の教育委員会のほうへ提出していきたいと考えますので、そんな方向でよろしいですか。

（3）今後の日程について

○会長 それでは、今後の日程につきまして事務局のほうから説明をお願いいたしま

す。

○事務局 本日の資料2ページを御覧ください。もう何度も見ていただいております全体スケジュールになります。黒の太枠で囲んだ部分ですけれども、2020年12月、本日3日ですが、第5回の協議会ということで成案について協議をしていただきました。貴重な御意見をありがとうございました。幾つか言い回しですとか表現の部分で御指摘をいただきましたが、幹事会で最終的な判断をさせていただきたいと思っております。

基本的に成案という形でお認めをいただきましたので、こちらの本曾地域の将来像についての意見・提案書ですけれども、本曾地域における高校の学びのあり方と具体的な姿としまして、県の教育委員会へ提出をしていきたいと考えております。

何とか今月中に県のほうへ出かけていきたいと思っているんですけれども、今の予定では、今月22日ですけれども、県の教育長さん宛てに原会長、それから櫻井副会長、あと事務局ということで、コロナの関係もありますので、少人数でお伺いをして提案書を提出してまいりたいと考えております。

その後ですが、2021年3月ということで、県教委のほうでは再編・整備計画(2次分)の公表が予定されております。最終的には、2022年3月に再編・整備計画(全県案)が公表され、2030年3月が再編・整備の完了ということで県教委のほうではスケジュールが組まれております。

意見・提案書を提出した後、県教委さんから様々な対応が出てくるかと思っておりますので、そちらについてはまた御注視をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

今後のスケジュールにつきましては以上です。よろしくお願いいたします。

○会長 今説明がありましたようなスケジュールで今後進めていくということでよろしゅうございますか。

○会長 それでは、よろしくお願いいたします。

(4) その他

○会長 それでは、(4)その他でありますけれども、事務局からは特にないようですけれども、皆さんのほうから何かございましたらお願いしたいと思います。

○委員 こちらの資料1のほうを今日はつけていただいているんですけれども、御覧ください。私は前回から参加させていただいているんですけれども、この協議会との出会いから生まれたPTAとしての取組をこの場をお借りして報告させていただければと思います。

私は7月の会議に初めて参加して、木曾の高校の現状を初めて知りました。小中学校の子供のいる親として不安になるとともに強い危機感を感じました。そこでPTAとして何かできないかと考えて、木曾郡の子育て委員会として10月に青峰高校さん、11月に蘇南高校さんの見学会を行いました。

参加された保護者の方と学校側との意見交換の場やアンケート、そして自分自身もこの見学会で感じたことは、ほとんどの保護者はこの木曾の現状を知らなかったということ、そして木曾の高校は本当にきめ細かい、手厚いすばらしい環境であること、また新しい教育や自主性、期待性、コミュニケーション能力、深い思考力、ICT、地域と連携した学びの場など、最先端のすばらしい環境でした。

子供が中学になり、進路を決めるときは親の影響も大きいと思います。子供だけでなく、保護者自身も子供が小さいうちから地元の高校を自分の目で見て感じることは大事だと痛感するとともに、人からの伝聞や書面、インターネットの情報からは感じるできない感動がありました。そして、木曾の高校は本当にすばらしい、想像以上でした。郡外に行かなくてもすばらしい環境が近くにあるんだという安心感を親として感じました。

実際、参加された方で3人のお子さんを持たれている方が、松本の高校に通わせるつもりだったけれども、木曾の2つの高校は本当にすばらしかったので、地元の高校に通わせたいと思ったというお母さんもいらっしゃいました。

この見学会を来年度以降も子育て委員会で続けていくとともに、参加されたお母さんも大変感動されましたので、各小中学校へ持ち帰り、自分の学校の保護者の方にもぜひ体験してもらいたいと、学校単位でも企画したいと言ってくださいました。この見学会を続けることで郡外の流出は少しでも防ぐことができるのではないかと感じました。

高校側のほうも、いつでも見学会に対応しますとおっしゃってください、木曾の子供たちの環境を守るためにもこの取組を続けていきたいと思うとともに、PTAとしてもこの問題を共有し向き合っていかなければならないと思いました。

お手元にお渡ししたアンケートの集計は、全ての保護者のリアルな声を知っていただきたいと思いお配りさせていただきました。お時間のあるときに見ていただければ幸いです。

この場をお借りして、青峰高校の中村校長先生、蘇南高校の小川校長先生、お忙しい中貴重なお時間をいただき、すばらしい見学会をしていただき本当にありがとうございました。先ほど両校長先生からもありましたように、この資料にあること

はかなり取り入れられていると思いました。本当にすばらしい学校でした。

以上で報告を終わります。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

○蘇南高校長 私からも関連してよろしいでしょうか。今回PTAの皆様に来ていただいて、私ども1つ大きく反省したのは、やはり中学3年生に向けての2校のアピールというのは一生懸命やってきたつもりなんですけれども、小学校、それから中学校でも1年生、2年生、そういった広い親御さんに学校に来てもらって、半日授業見学したり、私たちと語り合ったりして過ごしていただいたんです。そうやってもっともっと木曾の親御さんと私たちが近づいていかなければいけないと思いました。そういう大事な気づきをいただいた機会になりましたので、改めて御礼申し上げます。また頑張りますのでお願いします。

○木曾青峰高校長 私のほうからも。最初に原会長から出発点という言葉をお願いしたんですが、本当にこの会議が出発点になって、こういうかわりができたということが本当にうれしいなと思います。

ちなみに、千村さんからいろいろ聞いて、お母さんたちが聞いてちょっと反省しているのが、回覧板をもっと使ったほうがいいんだなと思っております。

○会長 ありがとうございました。ほかの委員の皆さんは特によろしいですか。

○蘇南高校長 もしよろしければ、最後にちょっと2校から御礼と決意表明のようなことをさせていただければと。

○木曾青峰高校長 本当に今申し上げたように、この会で気づいたことがいっぱいあって、今も小川校長のほうからもありましたように、やれることをやっていかなければいけないということを痛切に思っています。

ちなみに、今日たまたまハローワークと地域振興局の皆さんにお世話いただき、郡内の12社の企業の方の協力を得て、木曾青峰の教室を使って企業ガイダンスというのをやりました。今、県のほうの施策で各教室には提示装置というのがあるんですけれども、もうそれを今日も見事に使って、企業の皆さんが自分たちの木曾、郷土にはこういう会社があるぞと。もし外に出て行っても、戻ってくる時の参考にしてくれということを伝えていただいています。

これはまさに出発点だと思っていまして、コロナだったのでできるかどうかかなと思っていたんですけれども、それでもできた。それで12社も集めていただいたので、今度はそれをもっと増やしていければなと思います。これは私どものところと蘇南高校で別々にやっていただけることになっていますので、本当に地域を挙げ

て応援していただいているなど。あと行政、企業、そして高校、そういう連携が本当に生まれ始めたということを報告させていただき、この会そのものが我々2つの高校のためになるのかなど、応援の会だなどと思ってお礼をさせていただきます。ありがとうございました。

○**蘇南高校長** この会の議論を基に、長期的なスパンで学校の未来を考えていかなければいけないということとともに、短期的なスパン、この1か月、半年、1年でできることも幾つもあるので、その両方のスパンで学校づくりを改めて職員とやってまいりたいと思っています。

そのときに、私も含めて蘇南高校の教員は、この地元出身者が極めて少ないです。これは青峰さんより蘇南のほうが少ないことは事実です。ただ、改めてこの議論、ここの皆様の意見を聞きながら思ったのは、私たち自身が働いている間、木曾をふるさとと想着て、ここを愛し、ここで暮らすことの幸せを実感しながら、そのことを教育に生かしていこうと考えました。

なので、ふるさと探究序章を計画するに当たっては、教員たちとこんな人がいるんだ、こんな働きをしているんだ、こんなふう到现在まで生きてこられたんだという地元の方の生き方の感動をまず職員が驚き、楽しみ、その上で生徒に向かい合おうというスタンスを今つくっています。

学校の職員がそのような生き方をするようになったきっかけも、この会に与えていただきました。また蘇南高校をきらりと光る学校にしてまいりたいと思いますので、当然大先輩の木曾青峰とともに何とぞよろしくお願ひします。本当にありがとうございました。

○**会長** それでは、大変ありがとうございました。そのほかないようでありますので、議長を退任するに当たって、御挨拶を申し上げたいと思います。

拙い会長でありましたけれども、協議会委員の任期は設置要綱によりまして、県の教育委員会に対して意見書及び提案をするまでとなっておりますので、本日成案としてお認めいただきましたので、本日の会議をもちまして協議会の協議は終了と。委員の皆さんには大変この間御多忙の中を長期間にわたって御協力、御協議いただきまして、改めて御礼申し上げたいと思います。

また、私が最近読んだ本の中で、特に全国的に過疎地域であったり離島で、地域資源を生かしたカリキュラムを導入して地域課題解決型の学習の取組が進んでいると、そんなお話をいただいて、まさしく先ほど御発言があったような、そういったことをやはり私どももしっかり進めて、しっかり地域と高校が連携をしてこれから

進めて、木曾の子供たちをしっかりと社会人に育てていくということが極めて重要だろうと感じたところでございます。

ぜひまたこういった委員としての立場を外れますけれども、それぞれのお立場でいろいろな場面で御支援、御協力をいただきますようお願いをして、議長の任を解かせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。大変どうもありがとうございました。

○事務局 原町長には議事の進行ありがとうございました。それでは、ここで県教育委員会から挨拶をお願いいたします。

○県教委 皆様、こんばんは。本日最終となりました木曾地域の高校の将来像を考える協議会に御参集いただき、御意見、それから提案成案に向けて御検討、御承認をいただきましてありがとうございました。また、PTAの皆様には学校見学をしていただき、その報告もいただきましてありがとうございました。

委員の皆様、そして幹事の皆様、事務局の皆様におかれましては、平成31年1月23日の第1回協議会から本日までの第5回協議会を重ねていただきまして、丁寧な御審議、御意見の交換をしていただきましたことに重ねて御礼を申し上げます。

木曾地域の2校は、地域になくってはならない大切な学校でもありますし、地域とともに地域の皆様に多くの支援を賜り、支えていただき、育てていただいている学校であることは、県教育委員会としましてもしっかりと受け止めております。そして、地域の皆さんには本当に感謝しております。

現在、木曾地域に限らず、高校を取り巻く環境は変化が激しい状況にあります。木曾の高校が今後も地域の皆様と歩み、木曾の地域の中学生、そして保護者の皆さん、小中学生ですか、小さいお子さんにとっても魅力ある学校であり続けるために、本日協議会から御提出いただく意見・提案をしっかりと受け止め、令和3年3月に再編・整備計画（2次案）として、旧第10通学区の高校配置と将来像についてお示しさせていただく予定です。

本日の旧第10通学区協議会なんですけれども、私は最後の会に1回のみ参加となってしまいましたけれども、非常にこの協議会がすばらしかったということと、この協議会の意見提出を待たずにもう取り組まれている高校が2校、2つあるということで非常にうれしく感じました。

今後の課題もあるかと思いますが、県教育委員会としましてもできることをさせていただきたいと思っております。お忙しいところ、本日はありがとうございました。

いました。

○事務局 ありがとうございます。以上をもちまして、第5回の協議会を終了させていただきます。お忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

午後7時30分 閉会